

2018年5月30日

2018年 ICFO 総会について（報告）

非営利組織評価センター
杉田

1. ICFO 会議スケジュール

- 5月18日（金） ICFO 共催公開セミナー
- 5月19日（土） ICFO 年次総会
- 5月20日（日） ソーシャルイベント

2. ICFO 公開セミナー

ICFO メンバー20名地元 NPO の関係者が 50名
全体テーマ「Developing & Mantaining Donors' Trust」

1) 全体の感想

プログラムは3部で構成、1部ではメキシコの現状。2部ではテーマによる発表。3部は ICFO のメンバーによる、各国の評価基準と取り組みが主な内容となった。メキシコ自体の寄付を生む文化の醸成は一定以上国民には育ってはいるが、社会的な課題に対して取り組むチャリティ団体の認知度がとても低いことが理解できた。企業についても中小企業ばかりであることから余力がないという印象。米国の影響をいまでも受けていることから寄付に熱心なアメリカ企業への働きかけが多く、地元の企業との連携の具体例を知ることはできなかった。3部では ICFO の加盟国の発表、基準の説明にとどまり、もう一步踏み込んだどうドナーへの信頼を得るのか、つなげるのかまでの課題提起をできない点が課題を感じた。

メキシコではこのようなテーマでの公開セミナーは初めての試みということではあったが、同じ隣国のアメリカとの差がとても大きく感じた。特に BBBWGA の発表の際には質問者からは寄付大国という特別な状況であるアメリカは参考にならないという意見が多い印象がとても強かった。

2) プログラム

開会挨拶

このような公開セミナーは初の試み、今回の成果を今後の政府やチャリティ団への透明性を考えるきっかけとなれば良いとの挨拶があった。

ICFO 理事長のマルチナ氏から挨拶

信頼の作り方についてドナーとチャリティ団体の双方に有効な透明性を高めるモニタリン

グがとても大切である。本日は、このような機会を皆さんとともに考えていきたい。

7つの大切なキーワード

「公共の利益」「ガバナンス」「財政」「誠実性」「透明性」「Efficiency」「影響」

第1プログラム

BBBWGA エズラ氏

- ・BBBWGA の概要と BBBWGA 認証制度を紹介。
- ・今回チャレンジ又は研究している 2つの内容を発表
- ・1点目 信頼性トリガー

トリガーには 3つの視点「Accomplishments」「第三者のモニタリング」「財政状況のレイティング」が大切。最近の伸びている団体チャリティータイプについての課題が増加、また、非常に活動が見えやすい3つの視点を考えている NPO ホスピタルが、毎年登場している。

- ・2点目 コミュニケート リレーションシップ

Perceived trust vs Accountability

アメリカのドナー寄付の手法は現在でもダイレクトメールである。チャリティー団体は社会への報告は地域の教会を使って報告をしている。

初回寄付から 2 回目の寄付の際には同じところではなく、違うセクターに移ることがわかってきた。特に 18 歳前後の世代は SNS が主体であるため、寄付をしたとしても一つの団体に執着しない。また、そのセクター自体からも他へ移ってしまう。社会課題をやっているのはチャリティーセクターだけではない。株式会社など様々な主体が存在することがわかり、今回の取り組みの材料にしていきたい。

第2プログラム

メキシコ研究者 アリゾナ州立大学教授 マイケル氏

「団体の練習」「ターゲットは大衆」「地域活動」寄付の方程式を提唱。

透明性を積み重ね、信頼性を積み重ね、小さな寄附の行為を積み重ねることをキーワードとして発表をしていた。午前中にも説明があったが、約 3 ミリオン程度の寄付がある。国内の資金調達 TOP は、赤十字。しかし、赤十字はチャリティー団体とは言いにくい。1958 年と 2017 年の地震によって、寄付と他者との自助の助け合いが、政府が教育することなく、寄付文化が形成されてきた歴史がある。詳細はグローバルフィランソロピー報告書を参照。

民間のチャリティー団体の資金調達の事例

(事例 1) 博物館について、多くの寄付先よって設立され、現在でも運営資金について寄付を中心に展開し活動をしている。入り口を入ると日本と同じように団体や企業の寄付プレートが飾られている。日本企業ではダイキン工業、その他はアメリカの企業が大半。

(事例 2) 国内大手の電話会社テレトンのキャンペーンについて障害者の子供のための T シャツキャンペーン、国も後援をしたことから大成功。当時はメキシコでは珍しい。

(まとめ) 社会的な特徴として、女性の高齢者に社会全体が優しい寄付は信頼できる団体が使ってくれる結果を伝えていけば、のりしろが大きい。また、団体への寄付の特徴はボランティアにある。団体に関係していることや寄付決定はボランティア自身の影響を受け安い。2008年～2013年にかけて、政府は伸びず、民間の寄付額が4倍になっている。この数字から観るとメキシコは寄付額のポテンシャルがある。

「寄付の成功の積み重ねが大切」特に重要なのはボランティアへの透明性イニシアティブをしっかりと認識をして実施をしているところは伸びていると言える。

ICFO のスペイン評価機関のメンバー アナ氏

内容) 評価機関の実績と紹介

NGO へのシール認証。9 基準をもって 2 年間の有効期間でモニタリングを実施。

ベースは「独立性」「ボランタリー」「経済性」が軸にある。

特徴としては、「ベストプラクティスと透明性」

2017 より新しく 7 基準を追加した。

ICFO のドイツ評価機関のメンバー ウィルキー氏

内容) 評価機関の実績と紹介

目的としてチャリティ団体の社会に対する信頼が見えにくいことから一定の信頼を見えやすくすることをしている。コンセプトは3つ。1 サービスの透明性 2 寄付 3 キャパシティービルディング。モニタリングは自分たちのスタッフでやっている(シールの申請から決定、市民社会の透明性の推進)

第3プログラム：パネリスト発表

カーティス氏 カナダの基準の説明 発表時間 5分

CCCC 基準の説明とシールの意味について。

レナ氏 スエーデンの基準の説明 発表時間 5分

現在運用している基準と上位基準 K3 についての団体の結果について

ナサリー氏 フランスの基準の説明 発表時間 5分

政府が設立した評価機関であることなどについて。主に組織概要について。

マラゼック氏 チェコの基準の説明 発表時間 5分

小型版の評価と基準について説明。

テイラー氏 アメリカの事例 発表時間 5分

透明性が高まることで本当に信頼性が高まるのかを説明。



第1プログラム終了



スペイン発表 (アナ氏)



第2プログラム終了



パネリスト (フランス、スウェーデン、カナダ)

3. ICFO 年次総会

総会の内容

総会であるが、審議事項がとて多く、内容が盛りだくさんである、とにかく詰めすぎている感想を持った。その為、技術的なテーマITを活用する評価の方法については、当初の予定よりも半分以下の時間配分になり、消化不良を起こしたといえる。また、2018年度になり、ようやくITを活用した事務手続きや情報交換を行うという合意形成が図られたことも大きな意味があると思う。

加盟メンバーが20各国を越えたことで、今回非常に議論が粉碎した「カントリーレポートの情報共有」については、情報の共有方法、取りまとめの方法、各国の事情に均一的な情報提供の在り方についても今後課題となると感じた。

～審議内容は非公開～

JCNE からの説明

●NPO=チャリティ団体の置かれている環境の変化

休眠預金活用法の整備があり、民間資金としてNPOへ流れることになった。

ベーシック評価23基準とアドバンス評価27基準、2つの組織評価を使って2018年から認証シールシステムを実施することを発表。ICFOの中では日本はまだ、子どものレベルである。どんな情報やアドバイスでもいいので、メールや残された日数でも意見を交換したいと伝え、積極的な情報交換を行った。

総評

今回、初めて ICFO の総会に参加し、様々な経験をする事ができた。何度もキーワードとして出た「透明性」を「信頼性」へつなげるためには、モニタリングの質をどうあげるのか、質をあげるには団体への負担となる「より細かな情報提供も同時に求める」ことになるため、ジレンマがついてくる。この部分のバランスを「団体のある程度の情報提供をする気にさせるものとして「デベロップメント」が重要。評価というモニタリングだけではなく、ドナーが一番必要としていることはなにか、チャリティ団体自身との評価団体が意見交換を行い、社会が求めるものは何か？信頼性だけではなく、団体側の自立と自律がもう一つのヒントとなっていると考えられる。この経験を通じて、2018 年に実施する認証制度に役立てたいと思う。サブプログラムとして、今回はホスト国、メキシコの協力を経た。メキシコとチャリティ団体への理解を深めるため、時間の合間に文化遺産や市街地などを訪問し、メンバー同士でのディスカッションを行った。

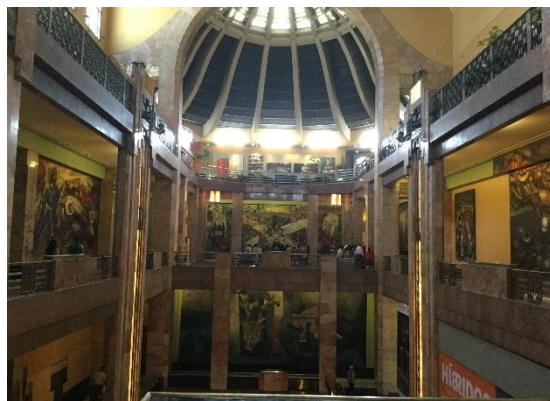
ICFO レポート：

<https://www.icfo.org/2018-mexico-city-mexico/>

2018年5月18日 第一日目 夕方：美術館訪問



ベジャス・アルテス宮殿（美術館）



美術館内観



有名内作家の作品



ガイドに聞き入るメンバー



市街地



ヒストリックセンター

2018年5月19日 第二日目 午後：夕方 博物館訪問と市街地



ガイドツアーに参加



ピラー大聖堂



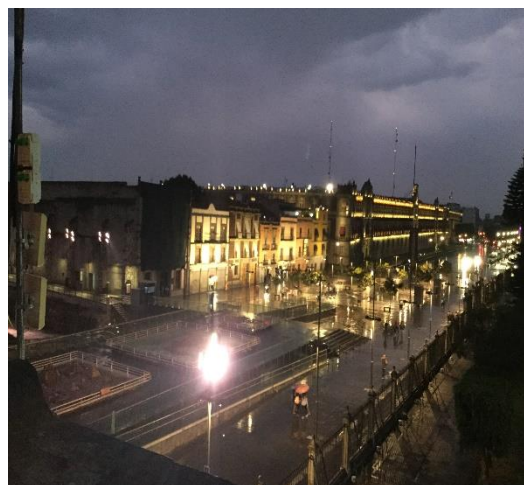
博物館から見た市街



メキシコ国立人類学博物館



展示品（マヤの印鑑）



市街夜景